

## 中国人上級日本語学習者による文末表現「って」の習得調査

潘 蓉

東京学芸大学大学院教育研究科

tbbbx636@yahoo.co.jp

### 1. はじめに

日本語の会話において文末表現「って」は単に引用を示すだけではなく、話し手の主観的な感情態度を表わす機能もあることと言う（鎌田 2003）。次の例（1）を見てみよう。

(1) 母：どうしたのよ。

知子：（高平の）お母さんが明日お見えになるんですって。

ここで「知子」が言わんとしていることは、「高平のお母さんが明日来るそうだけど、予期していなかったので少し驚いている」というようなことを状況として設定する。

この引用句を直接引用句と見做すと、次の2通りのことが考えられる。

a. お母さんが「明日お見えになるんです」って言った。

b. 「お母さんが明日お見えになるんです」って言った。

(a) だと、「お母さん」が来るのではなく、誰か別の人が来ることになり、「知子」の意図とは違ってしまふ。(b) は誰かがこの引用句を言ったということになるがこの文自体とても座りの悪い文である。例文では、「知子」自身の視点から「お母さん」が「お見えになる」と言っているのである（鎌田 2003）。

コミュニケーションを重視する傾向になりつつある日本語教育の現場では、口語体で頻繁に使用される文末表現「って」の指導はまだ不十分であると言わざるをえない。

したがって、本研究では、中国と日本にいる上級の中国人日本語学習者を対象とし、学習環境の違いによる「って」の習得状況に如何なる相違点が見られるかを考察し、その使用においてどのような問題点が見られるかを明らかにしようとするを目的とする。

### 2. 先行研究

これまでの研究は文末表現「って」の引用や伝聞の用法以外、口語体として話し手の気持ちを表すための用法に関する分析するものが多かった。

許（1999）では従来文末の「って」は引用/伝聞、問い返しを表すとされてきたが、談話に現

## 中国人上級日本語学習者による文末表現「って」の習得調査

れる文末の「って」は、ほかの用法もあると述べている。そして、「第三者の話を伝える」、「相手に働きかける（問い返しまたは、相手の話に反発する）」及び「自分の考えを引用して説明する」という三つのグループの用法があると考え、分析した。

平田（2008）では口語体の文末表現の「って」には、間接性を高めて丁寧度を上げ、円滑なコミュニケーションを行うための話し手の聞き手に対する配慮を表す機能があると考え、分析した。そして、平田で述べられている文末の「って」の意味用法を、次のようにまとめられる。

### ① 伝聞用法：第三者の発話を聞き手に伝える用法

A 「雨、降りそうだね。」

B 「このあたり、夕立が多たって」 「ただいま」

② 真意問い直し用法：相手の発話の真意が理解できず、引用を通して、その発話を行った理由や態度に言及するような場合である。

真子 「どうしょ？」

晶 「どうしょって……まさか、見合いする気あんのか？」 「友達」

③ 自分の感情表現用法：話し手が心中に描いた思いを聞き手に伝えている発話で、しばしば終助詞「な（あ）」が生起することがある。

真子 「嬉しかった、あたし」

柏木 「なに？」

真子 「このまま時間がとまればいいのになって」 「友達」

④ 主張・訴え用法：話し手が自分の発話を相手に押し付け、注意を促したり、訴えかけたりする場合である。

啓太 「頼むよ。頼む。代わりに行ってくれ。1時に遊園地の入り口」

権 「だから、いかないって」 「オレンジ」

以上は平田から引用した「って」の分類であり、本研究のアンケート調査で「って」の用法分類として使われている。

これらの研究では、文末表現「って」の意味機能について分析された。本研究では、中国人日本語学習者の文末表現「って」の意味機能の習得状況を考察することを目的とする。

## 3. 研究方法

### 1. 筆記テストを行う。

①対象：中国語を母語とする日本語学習者 ②日本語能力：日本語能力試験で1級合格 ③被

調査者グループ：a. 中国にいる学習者（CS） b. 滞日一年間以上の学習者（JS） ④テストの内容：「って」の意味と機能に関する知識を考察するための選択問題 ⑤疑問点について調査対象者へのフォローアップインタビューも加える

2. 中国と日本に使用されている代表的な日本語教材の中の文末表現「って」に対する扱い状況を調査する。

## 4. 結果と考察

### 4.1 調査の結果

調査対象者は中国にいる学習者（CS）と在日の学習者（JS）という二つのグループに分ける。（各グループの学習者：20人 CS：女15人、男5人 JS：女13人、男7人）CSの平均日本語学習歴は6.3年である。JSの平均日本語学習歴は5年で、滞日期間は平均2.5年である。アンケートについては平田（2003）の分類をもとに、文末「って」の用法を四つに分け、全部16問で、各用法には4問を設けた。

表1 文末「って」使用の正答率（全正答数/全問数）

	中国にいる学習者（CS）20名	在日の学習者（JS）20名
伝聞用法(4問)	[44/80 (55%)]	[51/80 (64%)]
真意問い直し用法(4問)	[63/80 (78%)]	[71/80 (89%)]
自分の感情表現用法(4問)	[33/80 (41%)]	[38/80 (48%)]
主張・訴え用法(4問)	[32/80 (40%)]	[41/80 (51%)]

### 4.2 結果の考察

#### 4.2.1 伝聞用法

「伝聞用法」の正答率はCSの55%とJSの64%である。理由の回答も正しく、主に伝聞や引用や伝言などの言葉を使っていた。ただし、結果を見ると、四つの問題の中で、やさしい問題の正答率が高いという傾向が見られた。なぜかと言うと、今まで日本語教材の中で、「って」の伝聞用法について詳しく説明され、学習者にはもう学習されているからである。

#### 4.2.2 真意問い直し用法

正答率は一番高い用法であり、CSの78%とJSの89%と示している。

理由回答については、CSのほうは引用や重複や相手の話を繰り返すなどの回答が多かった。問い直しと確認、「というのは？」のような回答もあったが、数は少なかった。JSのほうはもっと正確で、問い直しや聞き返しや「というのは？」などの回答ができた。

この用法はやはり引用の性質が強く、学習者にとっては習得しやすいと思われる。そして、フォローアップインタビューにより、この用法は日常会話ではよく使われていて、ドラマや日本

## 中国人上級日本語学習者による文末表現「って」の習得調査

の番組などを見ることにより、習得できた学習者もいった。

### 4.2.3 自分の感情表出用法

正答率は少し低くなり、CSの41%とJSの48%だった。「って」のかわりに、「何も入れない」を選択した割合が多かった。

この「って」は話し手が心中に描いた思いを聞き手に伝える機能を持ち、相手のことを意識しながら会話を行う。逆に、「って」を使わない場合は独り言を話すニュアンスがより強く感じる。次のように、母語による影響もあると考えられる。中国語の場合は、「我想」（つまり「私は～と思う」）という言葉は自分のことを強調したい時だけ使われている。普通に自分の思いを伝える時に「我想」は特に使わない。

ただし、正答した人はだいたい「と思う」と「自分の考えである」のような正しく理由も回答できた。JSの場合は、CSより正答率はやや高かったが、CSと同じ「何も入れない」の選択は多かった。

### 4.2.4 主張・訴え用法

正答率が低い数字を示している。二つのグループの状況はほぼ同じだった。「よ」の選択の割合は他の選択と比べて多いと見られる。CSの24%とJSの15%と示されている。やはり気持ちを強めるためなら、「よ」を選ぶ傾向が見られた。「よ」は話し手が「未知なこと」を相手に告知する場合に使う終助詞で、「って」は話し手が自分の考えと主張を、再度強調し、説明する、つまり相手に既知なことを伝える場合に使われている。しかも、「よ」に間違えた学習者が書いた理由の部分は「強調」や「話を繰り返して強調する」のような回答が多かった。それゆえ、「って」のこの意味機能に対し、学習者の習得はまだ定着していないと言えよう。

## 5. 今後の課題

考察の結果を見ると、中国人学習者は文末表現「って」の習得はまだ不十分だと思う。特に、「自分の感情表出用法」と「主張・訴え用法」のような引用の性質が弱まり、話し手の気持ちを表現する用法である。ですから、今後の課題として、現在の教科書の中で文末表現の「って」の扱いを調査することと今後どのように文末表現「って」を一つの知識点として教科書に取り入れるのかについて、研究を行いたいと思う。

## 引用文献

鎌田 修 (2000) 『日本語の引用』 ひつじ書房

平田 真美 (2008) 「文末表現「ッテ」の機能」『国際交流センター紀要2号』 pp.53-59

許 夏玲 (1999) 「文末の「って」の意味と談話機能」『日本語教育101号』 pp.81-91